



人の意見を聞かないことの重要性

もう30年以上も前になるが、私は医学部を卒業して大学病院で臨床研修を始めることになり、様々な患者さんの診療に当たることになった。当然のごとく初めての経験であり、多くの人たちのアドバイスを聞きながら診療をして行くことになったが、困ったのは複数の人の意見を聞くと、それぞれの意見が相反していることもあり、私自身が混乱してしまうことだった。大学院に入学して、研究を開始してからも同じ状況が出現することになった。ある実験のトラブルシュートをするときに、複数の人からそれぞれ異なったアドバイスを受けると、それを全部やるのは本当に大変であり、多くの場合は実験しても positive な結果が得られるわけでもなく、徒労に終わることも多々あった。もちろん一部の本当に私の信頼していた人からのアドバイスは別だったかもしれない。自分の実験がうまくいかない原因を世界の誰よりもよく考えているのは自分のはずであり、教授が本当の意味で真剣に私の実験のトラブルシュートを考えてくれているかも疑問だと思っていた。一度このようなエピソードがあった。教授のアドバイスに従って実験をしたところ、一つ重要な見落としが教授にあり、当然その実験はうまくいかなかった。実験がうまくいかなかった原因として、その点を指摘したところ、「君は私（教授）が間違ったことを言っていたとしても、何の確認もせずに、そのまま信じるのか？」と反論された。このようなこともあり、また生来の私自身の懐疑主義的な性格もあり、他人の意見を無批判に取り入れることは非常に危険だと思うようになっていた。このような経験をしてきた私は、ある時から「原則として、私は人の意見は聞かないことにす

る。人の意見を聞く時には、既に私の中で自分の意見は決まっており、それを確認するだけにする。」というように心に決め、以後時々このことを公言することにしてきた。周囲の人から（特に私の家族）は、人の意見を聞かない、あるいは頑固者というように言われてきたが、その後の人生において私の決断は正しかったと思っている。

プロ野球選手（実は私の岳父は元プロ野球選手であり、惜しくも残り数本で2000本安打に届かなかったというキャリアの持ち主である）が指導される時の悪い例としてよく言われることだが、新人が入ってきた時にコーチが自分の流儀で、選手の投球フォームやバッティングフォームを色々と改造してしまい、結局のところアマチュア時代の一番いい状態を台無しにしてしまうという話がある。元ジャイアンツの投手であった桑田さんの文藝春秋社「Number」誌に掲載された手記によると、彼がPL学園野球部に入部した当初は、コーチに自分の投球フォームを改造させられてしまい、全く自分の投球ができなくなり、一時は野球を辞めようともまで思い悩んでいたとのことであった。しかしたまたま、臨時コーチとして赴任してくれた人が元の投球ホームを評価してくれたことから投手としての野球人生が復活したことを述べている。

これらのエピソードは極端なもの、ある意味で「人の意見を聞かないことの重要性」、あるいは「いい意味での頑固さ」が重要であることを物語っている。無批判に素直に他人の意見を聞いている人は、常に「アドバイス地獄」に陥る危険性を孕んでいるのではないだろうか？ しかし、誰のアドバイスも聞かないというのは非現実的であり、なるべく早く自分が本当に信頼できる人を見つけることが実生活にとっても、研究にとっても重要だと思う。それが自分の所属する講座の教授あるいはその他のスタッフメンバーであることが、学生や大学院生にとっては理想的なことだろう。自分が本当に信頼できる人の意見だけを聞き、その他の人の意見は聞き流すという鈍感さが研究も含めて人生において重要なことではないかと思う。

（五竹庵主人）